

第十三課

祈りと断食

不信仰のいやし

「そのとき、弟子たちはそつとイエスのもとに来て、言った。『なぜ、私たちには悪霊を追い出せなかったのですか。』イエスは言われた。『あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があつたら、この山に、「ここからあそこに移れ。」と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。ただし、この種のは、祈りと断食によらなければ出て行きません。』」

(マタイ一七・一九—二二)

イエスがてんかんの患者から悪霊を追い出すのを見て、弟子たちは、自分たちがいやせなかったのも、その失敗の原因を尋ねたのです。主は、すでに、弟子たちに対して「悪霊を追い出し、あらゆる病をいやす権威」を与えておられました。弟子たちは、しばしばその力を使い、いかに悪霊が従ったかを喜んで語りました。ところが今、主が山におられる間に、弟子たちは完全に失

敗してしまいました。この場合、神のみこころでなかったとか、救いがたいものであったとかいうことではありませんでした。それは、キリストがお命じになると悪霊が出て行ったことから明らかです。「なぜ、私たちには悪霊を追い出せなかったのですか」という言い方からすると、弟子たちはそうしなかったし、またそうしようとしたのです。おそらく、主の御名を使って、悪霊に出て行くように命じたことでしょう。しかし、それもむだになり、弟子たちは群衆の前で恥をかきました。「なぜ、私たちにはできないのですか。」

イエスの答は、率直かつ明瞭でした。「あなたがたの信仰が薄いからです。」イエスの成功と弟子たちの不成功の原因は、イエスに、弟子たち以上の力があつたからではありません。その理由は身近なところにありました。イエスは弟子たちに、闇の国でも神の国でもすべてのものが一つの力、すなわち信仰の力に服さなければならないことを教えられました。霊界における失敗の原因はただ一つしかありません。それは信仰の不足です。信仰こそ、神の力が人間に入り、そこで働く唯一の条件です。信仰は、見えないお方を感じる能力です。人間の意志は、神のみこころに服従することによって練られます。悪霊を追い出すために与えられた力は、永久的な賜物あるいは所有として与えられたものではありません。力はキリストにあり、キリストを信じる生きた信仰によってのみ与えられ、保たれ、用いることができます。キリストを霊界の主、また征服者として完全に信じ、キリストの御名によって悪霊を追い出す権威をお与えになった方としてキリスト

を完全に信じていたならば、その信仰は彼らに勝利を与えてくれるはずでした。「あなたがたの信仰が薄いからです」とは、いつの時代でも、主が、教会の無能と失敗の原因を示し、叱責なさることばです。

だが、そのような信仰の不足にもまた原因があるはずで、弟子たちはこう言えばよかったのかも知れません。「なぜ私たちは信じられなかったのだろう。以前、私たちの信仰は悪霊を追いつ出すことができたのに、なぜ今回は信じられなかったのだろう」と。しかし、弟子たちがさう言う前にイエスはこう言われました。「この種のもは、祈りと断食によらなければ出て行かません。」信仰は最も単純なものであるからこそ、靈的生活の最高の行為なのです。そのような信仰が実行される時、私たちの靈は神の御靈を完全に受け入れ、強められて最高の活動ができるようになります。この信仰は、全く靈的生活の状態に依存しています。靈的生活が強く、健全で、神の御靈が私たちの生活を完全に支配している時、信仰の力は力強く働きます。だからこそ、イエスはこう付け加えられたのです。「ただし、この種のもは、祈りと断食によらなければ出て行かれません。」この悪霊に見られるような頑固な抵抗に打ち勝つ信仰は、イエスが言われたように、祈りと断食によつてこの世から特に離れ、神との親密な交わりに生きる者になって初めて可能なのです。そこでイエスは、祈りに関して非常に重要なことを二つ教えられました。信仰は、それが育ち、強くなるために祈りの生活が必要であることと、もう一つは、祈りが十分に発達する

が育ち、強くなるために祈りの生活が必要であることと、もう一つは、祈りが十分に発達する

ためには断食が必要であることです。

信仰が十分な成長をするためには、祈りの生活が必要です。霊的生活の各部分は密接につながっており、絶えず、作用、反作用が繰り返され、原因ともなり結果ともなります。信仰の場合も同じことが言えます。信仰がなければ本当の祈りはありません。信仰のある部分は祈りに先立つものです。しかし同時に、祈りは信仰を増すために役立ちます。多くの祈りなしに、信仰を高めることはできません。これがすなわち、イエスがここで教えておられることです。私たちの信仰ほど、成長するために多くを要するものではありません。「あなたの信仰は大いに成長している」と言われた教会がありました。イエスは、「あなたがたの信仰のとおりになれ」と言われた時、御国の法則を宣言されたのです。それによると、すべての人が同じ程度の信仰を持っているとは限らず、同じ人でもいつも同じ程度の信仰を持っているとは限りません。信仰の程度は、力と祝福の度合によって決ります。どのようにして、またどこで信仰が育つのかを知りたいと思うなら、主は神の王座を指し示されるのです。信仰が育つのは、祈りと信仰の実践と、生ける神との交わりにおいてです。信仰は、神御自身によって養われるものです。

神を知り、信頼する能力は、神を礼拝し、神に仕え、神を待ち望む時、御自身を現していただくとして神に降服したたましいの深い静けさのうちで育てられるものです。神の書からみことをばをいただき、それを携えてみもとに行き、神に、生きた、愛に満ちた御声で語ってくださるよ

うに求める時、神御自身の私たちに對することばとして信じ、受け入れる力が完全に与えられます。祈りの中で、生きた信仰による神との生きた交わりをします。その中でこそ、神がお語りになるすべてのことを受け入れ、私たちの信仰のために神が提供してくださるすべての可能性を受け入れる信仰、すなわち、神を信頼する力が私たちのうちに強められるのです。多くのクリスチャンは、時折耳にする多くの祈りということが何を意味するのか理解できないのです。彼らは、それを考えもしないし、神と数時間を過ごす必要も感じないのです。しかし、主が言われたことは、多くの人の経験によって裏づけられています。すなわち、熱烈な信仰の持主はよく祈る人です。

自分が求めるものを受けたと信じなさいと言う前に、イエスは、まず「神を信じなさい」と言われました。私たちは、もう一度この教えに立ち返らなければなりません。私たちの信仰は、生ける神にその根を深く下ろさなければならぬのです。それによって、私たちの信仰は、山を移し、悪霊を追い出すことができるまで強くされます。「信じるならば、なんでもできる。」神がこの世で私たちに備えてくださったみわざに自分をささげ、山を移し、悪霊を追い出すことにかかわろうとするなら、大きな信仰と多くの祈りが必要であることがすぐに理解できるようになるでしょう。多くの祈りは、信仰がつかわれる唯一の土壌なのです。キリスト・イエスは私たちのいのちであり、私たちの信仰のいのちでもあります。私たちを強くし、単純に信じさせてくれる

いのちであり、私たちの信仰のいのちでもあります。私たちに強くし、単純に信じさせてくれる

のは、私たちのうちにあるキリストのいのちです。多くの祈りは、自己に死ぬことを意味します。自己に死に、イエスと親しく交わる時に、祈りの霊は力を与えられます。信仰は、完全に成長するために祈りを要するのです。

そして、祈りが完全に成長するためには、断食が必要です。これが第二の学課です。祈りは、一方で目に見えないものをつかむもので、断食は、もう一方で目に見えるものを捨て去るものです。食物に対する欲求と、その楽しみほど、人間が、その意識の世界で密接に結びついているものはありません。人間がパラダイスにおいて誘惑され、それに負けたのは、おいしそうに見えた果物でした。イエスは、荒野にいて空腹の時、パンを石に変えるようにと誘惑されました。しかし、イエスは断食をして勝たれました。私たちの体は、贖われて聖霊の宮となりました。ですから、心においても体においても、聖書が言うように、食べるにも飲むにも神の栄光を現すべきなのです。多くのクリスチャンにおいて、この食べて神に栄光を帰するということが、霊的現実になっていません。断食と祈りについて言われたイエスのみことばは、まず、節制と克己と自己否定の生活こそ、多く祈ることの中心であり力であるという考えを暗示しています。

しかし、このみことばには文字通りの意味もあります。悲しみや心配事があると物がのどを通りません。しかし、楽しい時、喜ばしい時は、飲食をもって祝います。熱心に強く祈り求める時、時として食欲が起って来て、闇の力との戦いにおいて霊の妨げになるものを感じることがあります。

す。食欲を満たすことがたとえ正当であっても、この場合、それを抑制する必要があるのです。もともと私たちは意識を持った被造物です。私たちの頭は、何か形を持ったものに動かされやすいものです。そこで、断食のような具体的な行為は、私たちが、どんなものでも犠牲にし、自らをも犠牲にして、神の国のために求めているものを得ようとする決心を表明し、深め、確信させるのに役立ちます。御子の断食と犠牲を受け入れた神は、キリストと御国のためにすべてを犠牲にしようとしているたましいを評価し、受け入れ、霊的力をもって報いてくださるのです。

断食をもう少し広い意味で考えてみましょう。祈りは、神や目に見えないものを求めるものであり、断食は、目に見えるもの、一時的なものを放棄するものです。普通のクリスチャンは、はっきり禁じられているもの、罪と分るもの以外はすべて合法的なものと考え、富でも、文学でも、他の楽しみでも、できるだけのものを手に入れようとします。しかし、本当に献身したたましいは、一人の兵士として、戦いに必要なものだけを身につけます。彼は、あらゆる重荷や、まつわりつく罪を捨て、世事に煩わされるのを気にして、ナジル人の生活を求め、ひたすら主とそのままに献身します。したがって、正当と思われるものからさえ身を引きます。このような自発的な分離なくして、決して祈りにおいて力を獲得することはできません。「この種のものは、祈りと断食によらなければ出て行きません。」

祈りを教えてくださいと主に求めるイエスの弟子たちよ！ 今こそ、この教えを受け入れなさ

と断食によらなければ出て行きます」
祈りを教えてくださいと主に求めるイエスの弟子たちよ！ 今こそ、この教えを受け入れなさ

い。イエスは、祈りが、悪霊を追いつ出すほどの強い信仰に通じる道であると告げられます。イエスは、「信じれば、できないことはない」と言われます。この栄えある約束に励まされて、多く祈る者とされますように。この報いは、どんな犠牲を払ってでも手に入れる価値があるものではないでしょうか。主が開いてくださった道を、すべてを捨てて、従って行く道ではありませんか。必要なら、断食もしようではありませんか。神と交わるという祈りの生涯の大事業を妨げるものは、体に関するものであろうと、世に関するものであろうと、すべて行わないようにしましょう。それによって初めて、私たちは信仰の人となります。そして、主はその人を、この世を救う御自身のみわざに用いてくださるのです。

第13課 不信仰のいやし

主イエスよ。あなたにはなんと、私たちの不信仰を戒め続けなければならなかったことでしよう。自分たちの父とその約束を信頼する能力がこうまでひどいことは、あなたの御目にどれほど奇異に見えたことでしょう。主よ。「あなたがたの信仰が薄いからです」というあなたの叱責を、私たちの心の底までしみ込ませ、私たちの周囲の罪や苦しみの責任の多くが自分にあることをお示してください。恵み深い主よ。信仰を学び取る場所、すなわち、あなたと御父との、生きた、継続的な交わりをもたらす祈りと断食を教えてください。

ああ、救い主よ。あなた御自身が信仰の創始者であり、完成者であります。聖霊によってあなたが私たちにお住まいになるとはどういうことなのか、教えてください。主よ。信じる恵みを求める私たちの努力も祈りもうまくいきませんでした。どうしてなのか、私たちは知っています。あなたからの力が自分のうちにあると思つて探してきましたからです。聖なるイエスよ。私たちにあるあなたのいのちの奥義を教えてください。どうしたら、聖霊によって信仰のいのちを私たちのうちに働かせてくださるか、私たちの信仰が失敗に終わらないように教えてください。どうか、私たちの信仰が、あなたの与えてくださる祈りの生活の部分となりますように。主は、この祈りの生活を、ただことばや思いのみによらず、あなた御自身のいのちの御霊のあふれ出る聖なる油注ぎによって、とりなしの訓練を受けようとする者に与えてくださいます。そして、どうしたら、祈りと断食によって、すべてを可能にする信仰に成長できるかを教えてください。アーメン。

注

ブルームハルトは、悪霊にとりつかれた人の悪霊との恐ろしい戦いを経験しました。彼は、祈りによって悪霊を追い出すことを考えている時、しばしば、何が答を妨げているか不思議に思いました。ある日、友人にこの問題を打ち明けると、友人は、断食についての主のことばを示しました。ブルームハルトは断食を

する決心をし、時には三十時間以上もしました。その後、彼はその経験と反省によって、断食が一般に考えられているよりもっと重大なものであると確信するようになりました。彼は次のように言っています。「主の御前でする断食は、自分の求めが真実で緊急であることの実際の証明となります。断食が、祈りの熱心さと力を強め、無言のうちに、絶えず実際的な祈りの表現となっているなら、主が言われたとおり、祈りは効果のあるものとなります。私は、だれにも告げずに断食をしました。すると、確かにそれまでの私の戦いは楽になりました。私は以前よりはるかに落ち着いて、はっきり語れるようになりました。私は病人のそばに必ずしもずっといなくても、力を働かせることができると信じるようになりました。」